

パネル討論会

テーマ： 「CASEを生かすためには何が必要か」

パネラ： 大宮 正剛 苅谷 雅明 佐藤 勇樹 橋本 省三
 (三菱重工) (NYKシステム総研) (リクルート) (日本航空)
 堀内 一 (司会)
 (日立製作所)

内容梗概：

CASEツールは、既に、あらゆるアイデアを試みるという第1世代を過ぎ、一貫した設計思想またはパラダイムによって、異なる機能をもつツール群を統合するという第2世代にあるといえる。さらに今後、第3世代として、ユーザとして本格的な成果を引き出し、これまでの問題の解決を図る段階を迎えるものと思われる。

そこで今回はこのパネル討論では、CASEツールの使用実績、あるいは導入検討の経験をもつ識者をパネラに招き、第3世代の到来に備えるべく、組織においてCASEを活用するためには何が必要かを討論する。即ち、次のようなトピックスを論点とする。

- (1) これまでのCASEの問題点は何か
- (2) CASEの問題点を解決するには、なにが必要か
- (3) ソフトウェアあるいはシステム設計方法論はどのように変るべきか
- (4) リポジトリには、何をどこまで格納すべきか